

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

＜先週の説教から＞

『クリスマス・ミカ ⑭ - 主は私の光である』

武田真治牧師

ミカ書 7:8-10 ヨハネ福音書 1:1-5

クリスマス、おめでとうございます！！ イエス様がこの世界に来て下さったことは私たちにとって何より、最高の良き知らせ＝グッド・ニュース(＝福音)です。その点は“福音書”が真っ先に伝えようとしていることが、イエス様の誕生であることから分かります。ただ、そのようにしても二千年前から、このご降誕の出来事が世界に向かって語られて来ているのに、クリスマスの中心である“主のご降誕”がどうしてももっと人々に届いていかないのでしょうか？ 日本でも、クリスマスそのものはいろいろな形でお祝いされていますが、その中心である主のご降誕そのものはなかなか届かない、無視されているのはどうしてだろうかと思ひます。

しかし、以上のことは、ヨハネ福音書のクリスマスのメッセージの中にも予告されていると言ひ得ます。即ち「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」という言葉です。イエス様という“まことの光”が世に来たのに、どうしても受け入れない、理解しようとしないう「暗闇」が存在し、残ってしまうのだ！ 私たちは、今もまさにその“闇”に取り囲まれていると言ひ得るのではないのでしょうか。

ミカ書を連続して読み進めて読んできました。今日の箇所と同じ“闇”に取り囲まれている預言者ミカが登場します。即ち「わたしの敵よ、わたしのことで喜ぶな。たとえ倒れても、わたしは起き上がる。たとえ闇の中に座っていても、主こそわが光。」です。ここでの「闇」は原語で(ホーセク)という言葉で「黄昏(たそがれ)時」とも訳されるように、この世の太陽が隠れてしまうことを指します。それは今まで自分を照らしてきてくれた存在を失ってしまった状態とも言ひ得ます。父母や肉親を亡くす経験や支えにして来たもの(＝先輩や上司、仕事ややりがい)を失う経験ではないでしょうか。急に目の前が真っ暗になってしまったと感じる経験でしょう。まさにそのような時にこそ、必要となるものが“消

えることのない光”ではないかと思ひます。必ず、私を救い出し、助けてくださるという“希望の光”があれば、この世の支えや頼りを無くしても＝闇の中でも「立ち上がる」ことが出来ると。それこそ、生きる上で最も必要なものではないでしょうか。その「光」が与えられた時こそクリスマス！

主のご降誕は、私たちの闇の中へ＝最も低い所へと降ってくださり『わたしが一緒にそばにいるからね！』と励ましてくださり、その重荷や悩みを『共に担おう』としてくださる出来事です。だから、私たちは『主よ、来て下さい』と祈り求めることが許されているのです。それ故、ミカのように「ついに、主がわたしの訴えを取り上げ、わたしの求めを実現されるまで。主はわたしを光に導かれ、わたしは主の恵みの御業を見る」という確信を持てるのです。どのような闇でも、イエス様の“光”が届かない場所はないのですから！

【今週の集会】

*元日祈禱会 1月1日(月) 11:00～
*聖書研究・祈禱会 1月3日(水) 1月4日(木) は
両日とも休会です。

【教勢報告】

主日礼拝 男18 女64 計82
祈禱会 I. 男4 女4 計8 II. 男1 女8 計9
日曜学校 幼稚科11 小中科16 計27
燭火礼拝(12月24日) 男36 女52 計88

【次週主日礼拝】 1月 7日(日)

聖書: ミカ書 7:11～16
ヨハネの黙示録 2:24～29
説教: 「ミカ⑭—あなたの杖をもって御自分の民を牧してください」 武田真治牧師
讃美歌: 356(1)、32、368(1～4)、394(1～3)、580(1～4)、27

【次週当番表】

司式: 保坂長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 茨木長老
配餐: 相浦 飯田 茨木 岩佐 各長老
献金: 吉澤 山中 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田
看板: 保坂 週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・会堂管理委員会
・長老会

2023年 12月 31日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>